

令和3年度

(対象年度：令和2年度)

東浦町教育委員会事務点検・評価報告書
(案)

令和3年8月

東浦町教育委員会

— 目 次 —

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 頁
第1章 教育委員会の事務点検・評価	
1 主な事業の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	2 頁～
◎ 学校教育課	
（1）義務教育振興一般管理事業・・・・・・・・	2 頁
（2）学校生活支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・	4 頁
（3）小学校一般管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・	6 頁
（4）小学校施設整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・	7 頁
（5）小学校教育振興事業・・・・・・・・・・・・・・・・	8 頁
（6）中学校一般管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・	10 頁
（7）中学校施設整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・	11 頁
（8）中学校教育振興事業・・・・・・・・・・・・・・・・	12 頁
◎ 学校給食センター	
（9）給食センター運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・	14 頁
◎ 生涯学習課	
（10）社会教育委員事業・・・・・・・・・・・・・・・・	15 頁
（11）社会教育一般管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・	16 頁
（12）青少年教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・	18 頁
（13）文化芸術活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・	20 頁
（14）文化センター事業・・・・・・・・・・・・・・・・	22 頁
（15）文化センター施設整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・	23 頁
（16）地区コミュニティセンター等事業・・・・・・・・	24 頁
（17）地区コミュニティセンター等施設整備事業	25 頁
（18）文化財保護事業・・・・・・・・・・・・・・・・	26 頁
（19）天白遺跡事業・・・・・・・・・・・・・・・・	28 頁
（20）郷土資料館事業・・・・・・・・・・・・・・・・	29 頁
（21）郷土資料館管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・	31 頁
◎ 図書館	
（22）中央図書館運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・	32 頁
（23）中央図書館管理事業・・・・・・・・・・・・・・・・	33 頁
◎ スポーツ課	
（24）社会体育一般事業・・・・・・・・・・・・・・・・	34 頁
（25）スポーツ推進委員事業・・・・・・・・・・・・・・・・	35 頁

(26) 生涯スポーツ振興事業・	36頁
(27) 体育館・はなのき会館管理事業・	38頁
(28) 学校体育館施設スポーツ開放事業・	39頁
(29) グラウンド・コート管理事業・	40頁
(30) ふれあいセンター管理運営事業・	41頁

2 教育委員会の活動状況・	42頁
-------------------------	-----

第2章 教育委員会事務点検・評価会議での意見・	43頁
-----------------------------------	-----

はじめに

各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することになっています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和2年度の教育委員会の点検及び評価をまとめ、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

区分	ソフト
----	-----

事業名		義務教育振興一般管理事業										
担当課		教育部 学校教育課 学校教育係										
目的	誰を・何を(対象)	小中学校児童生徒										
	どのようにしたいか(意図)	児童生徒を楽しく学校に通わせ、健やかな心と体を育み、学力の向上を図ります。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		100,447			80,002 80%			95,699 120%				
財源内訳	国・県支出金	9,132			8,483 93%			6,647 78%				
	受益者負担	0			142 0			142 100%				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	91,315			71,377 78%			88,910 125%				
主な事業実績(評価指標)		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		教科等特別指導員の配置人数(各小学校1名)									人	
		7	7	100%	7	7	100%	7	7	100%		
指標②		アフタースクール指導員等の配置人数(コーディネーター2名、指導員7名、補助員2名)									人	
		11	11	100%	11	11	100%	11	11	100%		
主な事業内容		・外国語指導助手(ALT)の配置事業 ・アフタースクール事業 ・学生ボランティア事業 ・教科等特別指導員の配置事業 ・学校経営活性化事業 ・小中学校運営事業										
成果		・外国語指導助手(ALT)の配置事業においては、英語を母国語とする指導助手(ALT)を学校に派遣し、児童生徒が生きた外国語を学ぶとともに、国際理解を図りました。小学校については、7校で年320日間、中学校については、3校で年164日間、ALTを派遣しました。 ・教科等特別指導員の配置事業においては、予定していた配置人数を達成でき、主に算数の授業でチーム・ティーチングを行うことで、よりきめ細やかな指導、支援を実施しました。 ・アフタースクール事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた地域住民との交流活動はできませんでしたが、子どもの安全な居場所づくり、勉強やスポーツ・文化活動等を例年どおり実践しました。 登録人数: H30年度 416人、R1年度 397人、R2年度 356人 参加延べ人数: H30年度 8,671回、R1年度 10,935回、R2年度 9,502回										
課題		・本町では、アフタースクール指導員の資格要件として、教員免許を保有することとしているため、指導員に欠員が発生した場合、迅速に欠員補充することが難しいです。 ・児童生徒への学習支援に対し意欲の高い学生ボランティアを確保するためには、大学訪問や案内通知の送付、学生ボランティアの相談等に多くの時間を割く必要があり、人件費の増加に繋がります。										
評価視点								総合評価				
必要性				有効性				効率性				
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
								A				
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充			○		・アフタースクール指導員に欠員が発生した場合には、迅速な欠員補充のため、ホームページ、広報、ハローワーク等を活用します。						
	現状維持					・児童生徒への学習支援に対し意欲の高い学生ボランティアの確保のため、ホームページ、広報、SNS、大学訪問等を活用し、周知します。						
	縮小											
	休止											
				皆減	縮小	現状維持	拡大					
				コスト投入の方向性								

事業名		義務教育振興一般管理事業		担当課	学校教育課 学校教育係			
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	外国語指導助手 (ALT)の配置事業	児童生徒	外国語指導助手(ALT)を各 小中学校に派遣して	ネイティブ英語に接する機会を 与えます。	9,772	10,560	現状維持	現状維持
2	アフタースクール事業	小学4年生から6年生までの児童	放課後に小学校の余裕教室 を活用し地域住民の参画を得 ることで	安全・安心な子どもの活動拠 点(居場所)を設け、地域の 方々の参画を得て、子どもた ちに勉強やスポーツ・文化芸術 活動、地域住民との交流がで きるようにします。	13,583	16,131	現状維持	現状維持
3	学生ボランティア事業	教員志望の大学生及び児童生徒	学生ボランティアを通常授業 や夏休みの補習授業に派遣 して	・教員志望の大学生の意欲、 経験値を向上させます。 ・授業内容が分からない児童 生徒に個別の学習支援をし ます。	7,105	7,533	拡充	現状維持
4	教科等特別指導員の 配置事業	児童	教科等特別指導員を小学校 に1名ずつ配置して	算数の授業を始め、一人ひと りの個性を大切に、個に応じ た教育を受けられるようにし ます。	8,514	8,560	現状維持	現状維持
5	学校経営活性化事業	教職員及び児童生徒	学校経営に必要な事業(必須 事業)及び各学校が企画する 事業(選択事業)に対し事業 費を交付して	教育活動及び児童生徒の学校 生活を充実させるとともに、特 色ある学校をつくります。	27,379	15,636	現状維持	現状維持
6	小中学校運営事業	教職員	報酬・報償支払、消耗品購 入、委託、備品購入、負担金 納入等について、遅滞なく執 行して	教育活動を充実させるサポート をするとともに、学校運営をサ ポートします。	13,649	37,279	現状維持	現状維持
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					80,002	95,699	拡充	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	55	頁
	施策	2 学校教育	取組	2 いじめ・不登校対策の実施			

事業名		学校生活支援事業										
担当課		教育部 学校教育課 学校教育係										
目的	誰を・何を(対象)	不登校児童生徒及び支援を必要とする児童生徒										
	どのようにしたいか(意図)	きめ細やかな指導支援により、不登校の児童生徒を早期に学校に復帰できるようにします。特別な支援を必要とする児童生徒に、きめ細かな個別対応を行うことで、生活の自立や社会参加を促すようにします。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		54,056			63,182 117%			70,970 112%				
財源内訳	国・県支出金	0			4,270 0			0 0%				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	54,056			58,912 109%			70,970 120%				
主な事業実績(評価指標)		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		適応指導教室(不登校児童生徒が在籍)の指導員の配置人数									人	
		4	4	100%	4	4	100%	4	4	100%		
指標②		支援を必要とする児童生徒に対する支援員の配置人数									人	
		31	48	65%	33	48	69%	36	48	75%		
主な事業内容		・適応指導教室(不登校児童生徒が在籍、本町ではふれあい教室と呼ぶ)運営事業 ・こどもと親の相談事業 ・特別支援教育事業 ・小中学校生活支援運営事業										
成果		・適応指導教室(ふれあい教室)には、月平均5.25人が在籍し、学習支援及び生活指導を実施しました。 ・こどもと親の相談窓口は、平成28年度から相談受付時間を1時間延長し、現在は、平日午前9時から午後5時まで相談を受け付けています。毎年度実施するチラシ配布やHP・広報掲載などの結果、相談件数及び訪問件数は次のとおりでした。 相談件数: H30年度 161件、R1年度 203件、R2年度 160件 訪問件数: H30年度 14件、R1年度 23件、R2年度 16件										
課題		通常学級においても個別の支援を必要とする児童生徒数が増加傾向にあります。特別な支援を必要とする児童生徒に対する学校生活支援員の配置人数が減少すると、きめ細かな個別対応が難しくなります。										
評価視点										総合評価		
必要性			有効性			効率性				A		
		○				○			○			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い			やや高い
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充			○		・指導員、支援員の確保のため、広報、SNS、ハローワーク等を活用し、周知します。 ・こどもと親の相談事業の周知機会が広がるよう、学校行事やSNS等を利用したPRも進めていきます。 ・特別支援学級の増級、1学級に在籍する人数の増加など、児童生徒の実態や学級の在籍者数を考慮し、必要に応じて支援員の拡大を考えていきます。						
	現状維持											
	縮小											
	休止											
コスト投入の方向性												

事業名		学校生活支援事業		担当課	学校教育課 学校教育係					
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性			
		対象	手段	意図			成果	コスト		
1	適応指導教室(ふれあい教室)運営事業	不登校児童生徒	適応指導教室(ふれあい教室)に通わせ、個別や小集団での相談・指導を行うことで	自立を促しながら、集団生活に適応する力を育み、学校への早期復帰を支援します。	9,407	10,767	現状維持	現状維持		
2	こどもと親の相談事業	学校生活や家庭生活に問題を抱える子どもまたは親	こどもと親の相談窓口やホットライン電話を活用して	いじめの防止や不登校児童生徒の早期発見・早期解決を図るための学校生活や家庭生活に関する様々な相談を受け、助言をします。	5,915	6,438	現状維持	現状維持		
3	特別支援教育事業	特別支援学級に在籍する障がいのある児童生徒及び通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒	学校生活支援員を配置し、きめ細かな個別対応を行うことで	充実した学校生活を送れるよう支援を行うとともに、生活の自立や社会参加を促すようにします。	39,242	45,116	拡充	現状維持		
4	小中学校生活支援運営事業	教職員	報酬支払、消耗品購入等について、遅滞なく執行して	事業の円滑な運営をサポートします。	8,618	8,649	現状維持	現状維持		
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
事務事業合計					63,182	70,970	拡充	現状維持		

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	55	頁
	施策	2 学校教育	取組	1 学校教育の充実			

事業名		小学校一般管理事業										
担当課		教育部 学校教育課 庶務係										
目的	誰を・何を(対象)	小学校										
	どのようにしたいか(意図)	安全で快適な教育環境を確保することで、児童の確かな学力や健やかな心と体を育みます。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		145,252			227,157 156%			189,744 84%				
財源内訳	国・県支出金				70,239 0			0%				
	受益者負担				0			0				
	その他特定財源	1,979			2,450 124%			3 0%				
	一般財源	143,273			154,468 108%			189,741 123%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		タブレット端末借上げ台数									台	
		0	—	0	0	—	0	2,979	—	0		
指標②		—										
				0			0			0		
主な事業内容		・タブレット端末の借上げ ・庁用器具備品等の購入										
事業実績		・タブレット端末を借り上げるにより、国が進めているGIGAスクール構想の推進及び学校の情報化の推進に寄与しました。 ・庁用器具備品等(サーマルカメラ、下駄箱、黒板他)の購入をすることにより、備品の拡充、更新が行われ、快適な教育環境を確保することに寄与しました。										
課題		・タブレット端末を活用した学習指導の充実を図るために、教職員の知識や能力の向上が必要です。 ・安全で快適な教育環境を確保するには、学校に必要な備品の整備が必要です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充				・教職員に対して、タブレット端末の活用方法等の研修を行います。							
	現状維持			○	・限られた予算の中で、より良い教育環境を確保するため、備品等の学校間での相互利用が可能であるか検討し購入します。							
	縮小											
	休止											
		削減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

区分	ソフト
----	-----

事業名		小学校施設整備事業											
担当課		教育部 学校教育課 庶務係											
目的	誰を・何を（対象）	小学校											
	どのようにしたいか（意図）	児童が安全な場所と感じることができる教育環境の確保に向け、施設・設備を整備します。											
事業費（千円）		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比（％）			2021 年度予算額 対前年比（％）					
		368,706			216,396 59%			136,664 63%					
財源内訳	国・県支出金	62,966			53,183 84%			1,633 3%					
	受益者負担				0			0					
	その他特定財源	258,800			101,700 39%			66,400 65%					
	一般財源	46,940			61,513 131%			68,631 112%					
評価指標		2018			2019			2020			単位		
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率			
指標①		修繕件数									件		
		49	—	0	29	—	0	30	—	0			
指標②		工事件数									件		
		20	—	0	14	—	0	8	—	0			
主な事業内容		・修繕の実施 ・改修、更新工事の実施 ・業務委託の実施											
事業実績		施設・設備の修繕、改修・更新工事及び監理・設計の業務委託を実施したことにより、安全な場所と感じることができる教育環境の確保に寄与しました。											
課題		・施設・設備の老朽化が進んでおり、突発的な破損、故障が増えています。 ・施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的な施設の改修、更新が必要です。											
評価視点										総合評価			
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止止を検討 A	
			○				○				○		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等									
成果の方向性	拡充					計画的に修繕、改修を実施するため、施設の長寿命化を図りながら、財政負担を平準化させた更新計画に基づいて、5年ごとに見直しをしながら、施設管理を行っていきます。							
	現状維持			○									
	縮小												
	休止止												
		増減	縮小	現状維持	拡大								
		コスト投入の方向性											

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	55	頁
	施策	2 学校教育	取組	1 学校教育の充実			

事業名		小学校教育振興事業					
担当課		教育部 学校教育課 学校教育係					
目的	誰を・何を(対象)	児童					
	どのようにしたいか(意図)	児童が、学習指導要領に応じた教育を受けることができ、確かな学力や健やかな心と体を育んでいけるようにします。					
事業費(千円)		2019 年度決算額	2020 年度決算額 対前年比(%)		2021 年度予算額 対前年比(%)		
		75,240	118,679 158%		79,610 67%		
財源内訳	国・県支出金	997	25,942 2602%		1,258 5%		
	受益者負担	0	0 0		0 0		
	その他特定財源	0	0 0		0 0		
	一般財源	74,243	92,737 125%		78,352 84%		
主な事業実績(評価指標)		2018		2019		2020	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率
指標①		就学援助事業対象児童数(新入学学用品費を入学前に支給した新小学1年生を含む)					
		302	—	0	289	—	0
指標②		特別支援教育就学奨励事業対象児童数					
		48	—	0	54	—	0
主な事業内容		・小学校運営事業 ・小学校就学援助事業 ・小学校特別支援教育就学奨励事業					
成果		・小学校就学援助事業においては、経済的な支援を必要とする児童の保護者に対し、学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施しました。 ・小学校特別支援教育就学奨励事業においては、特別支援学級への就学の事情を考慮し、その児童の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施しました。					
課題		・各種教材、図書等の購入は、経常的にコストがかかります。各種教材、図書等を充実させるには、コストが増加します。 ・判定要件(所得)、認定基準、援助費目について、社会経済情勢の変動が著しい今般、より実情に即した援助となっていることを常に確認しなければなりません。					
評価視点						総合評価	
必要性		有効性		効率性		A	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等			
成果の方向性	拡充			・理科の実験器具は、文部科学省からの補助金を活用して、計画的な購入を進めており、引き続き、計画的な購入、更新に努めます。 ・他市町村の動向を参考にしながら、必要に応じて判定要件(所得)、認定基準、援助費目等の見直しを行います。			
	現状維持		○				
	縮小						
	廃止						
		増減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性	

事業名		担当課		学校教育課 学校教育係				
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	小学校運営事業	教職員及び児童	報酬支払、消耗品購入、修繕、バス借上、各種教材・図書の購入等について、遅滞なく執行して	教育活動及び児童の学校生活を充実させます。	104,866	80,361	現状維持	現状維持
2	小学校就学援助事業	経済的な支援を必要とする児童の保護者	学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施して	経済的理由により就学困難な児童への教育の機会均等を図ります。	12,087	16,919	現状維持	現状維持
3	小学校特別支援教育 就学奨励事業	特別支援学級に在籍する児童の保護者	学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施して	特別支援教育の普及奨励を図ります。	1,726	2,330	現状維持	現状維持
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					118,679	79,610	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	55	頁
	施策	2 学校教育	取組	1 学校教育の充実			

事業名		中学校一般管理事業										
担当課		教育部 学校教育課 庶務係										
目的	誰を・何を(対象)	中学校										
	どのようにしたいか(意図)	安全で快適な教育環境を確保することで、生徒の確かな学力や健やかな心と体を育みます。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		65,178			103,812 159%			76,334 74%				
財源内訳	国・県支出金				36,302 0							
	受益者負担				0			0				
	その他特定財源	16			150 938%			1 1%				
	一般財源	65,162			67,360 103%			76,333 113%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		タブレット端末借上げ台数									台	
		0	—	0	0	—	0	1,561	—	0		
指標②		—										
				0			0			0		
主な事業内容		・タブレット端末の借上げ ・庁用器具備品等の購入										
事業実績		・タブレット端末を借り上げるにより、国が進めているGIGAスクール構想の推進及び学校の情報化の推進に寄与しました。 ・庁用器具備品等(サーマルカメラ、シュレッター、ワイヤレスマイク他)の購入をすることにより、備品の拡充、更新が行われ、快適な教育環境を確保することに寄与しました。										
課題		・タブレット端末を活用した学習指導の充実を図るために、教職員の知識や能力の向上が必要です。 ・安全で快適な教育環境を確保するには、学校に必要な備品の整備が必要です。										
評価視点											総合評価	
必要性			有効性			効率性			A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しを検討 D: 事業の統合・休止を検討			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
			○				○				○	
A												
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充				・教職員に対して、タブレット端末の活用方法等の研修を行います。 ・限られた予算の中で、より良い教育環境を確保するため、備品等の学校間での相互利用が可能であるか検討し購入します。							
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
				皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性				

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	56	頁
	施策	2 学校教育	取組	6 教育施設の整備			

事業名		中学校施設整備事業										
担当課		教育部 学校教育課 庶務係										
目的	誰を・何を(対象)	中学校										
	どのようにしたいか(意図)	生徒が安全な場所と感じることができる教育環境の確保に向け、施設・設備を整備します。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		179,543			59,097 33%			22,024 37%				
財源内訳	国・県支出金	45,710			22,453 49%			0 0%				
	受益者負担				0			0				
	その他特定財源	88,800			28,100 32%			0 0%				
	一般財源	45,033			8,544 19%			22,024 258%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		修繕件数									件	
		19	—	0	21	—	0	21	—	0		
指標②		工事件数									件	
		7	—	0	6	—	0	10	—	0		
主な事業内容		・修繕の実施 ・改修、更新工事の実施 ・業務委託の実施										
事業実績		施設・設備の修繕、改修・更新工事及び監理・設計の業務委託を実施ことにより、安全な場所と感じることができる教育環境の確保に寄与しました。										
課題		・施設・設備の老朽化が進んでおり、突発的な破損、故障が増えています。 ・施設・設備の老朽化が進んでおり、計画的な施設の改修、更新が必要です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止止を検討
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					計画的に修繕、改修を実施するため、施設の長寿命化を図りながら、財政負担を平準化させた更新計画に基づいて、5年ごとに見直しをしながら、施設管理を行っていきます。						
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	1 次世代育成	掲載	55	頁
	施策	2 学校教育	取組	1 学校教育の充実			

事業名		中学校教育振興事業										
担当課		教育部 学校教育課 学校教育係										
目的	誰を・何を(対象)	生徒										
	どのようにしたいか(意図)	生徒が、学習指導要領に応じた教育を受けることができ、確かな学力や健やかな心と体を育んでいけるようにします。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		49,188			56,015 114%			61,582 110%				
財源内訳	国・県支出金	654			12,055 1843%			875 7%				
	受益者負担	9			7 78%			4 57%				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	48,525			43,953 91%			60,703 138%				
主な事業実績(評価指標)		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		就学援助事業対象生徒数									人	
		151	—	0	155	—	0	169	—	0		
指標②		特別支援教育就学奨励事業対象生徒数									人	
		20	—	0	20	—	0	25	—	0		
主な事業内容		・中学校運営事業 ・中学校就学援助事業 ・中学校特別支援教育就学奨励事業										
成果		・中学校就学援助事業においては、経済的な支援を必要とする生徒の保護者に対し、学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施しました。 ・中学校特別支援教育就学奨励事業においては、特別支援学級への就学の事情を考慮し、その生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施しました。										
課題		・各種教材、図書等の購入は、経常的にコストがかかります。各種教材、図書等を充実させるには、コストが増加します。 ・判定要件(所得)、認定基準、援助費目について、社会経済情勢の変動が著しい今般、より実情に即した援助となっていることを常に確認しなければなりません。										
評価視点										総合評価		
必要性			有効性			効率性				A:計画どおりに事業を進めることが妥当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止止を検討		
		○			○			○	A			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い				やや低い
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充				・理科の実験器具は、文部科学省からの補助金を活用して、計画的な購入を進めており、引き続き、計画的な購入、更新に努めます。 ・他市町村の動向を参考にしながら、必要に応じて判定要件(所得)、認定基準、援助費目等の見直しを行います。							
	現状維持		○									
	縮小											
	休止											
		増減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性						

事業名		中学校教育振興事業		担当課	学校教育課 学校教育係			
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	中学校運営事業	教職員及び生徒	報酬支払、消耗品購入、修繕、バス借上、各種教材・図書の購入等について、遅滞なく執行して	教育活動及び生徒の学校生活を充実させます。	41,384	42,034	現状維持	現状維持
2	中学校就学援助事業	経済的な支援を必要とする生徒の保護者	学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施して	経済的理由により就学困難な生徒への教育の機会均等を図ります。	13,462	18,283	現状維持	現状維持
3	中学校特別支援教育 就学奨励事業	特別支援学級に在籍する生徒の保護者	学用品費、学校給食費、修学旅行費等の援助を実施して	特別支援教育の普及奨励を図ります。	1,169	1,285	現状維持	現状維持
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					56,015	61,582	現状維持	現状維持

区分	ソフト
----	-----

事業名		給食センター運営事業										
担当課		教育部 学校給食センター 学校給食センター係										
目的	誰を・何を(対象)	児童、生徒及び保護者										
	どのようにしたいか(意図)	・食に関する正しい理解 ・食育の推進										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		275,185			312,519 114%			342,990 110%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	187,089			150,889 81%			230,160 153%				
	その他特定財源	722			63,801 8837%			689 1%				
	一般財源	87,374			97,829 112%			112,141 115%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		地産地消率									%	
		42	47	89%	47	48	98%	52	48	108%		
指標②												
				0			0			0		
主な事業内容		・児童・生徒の心身の発達のため、栄養バランスのとれた給食を提供します。 ・食に関して特別の配慮(アレルギー)を必要とする児童・生徒に対する個別的な指導を実施します。 ・食に関する巡回指導を実施します。										
事業実績		・4,579名(小学校3,062名、中学校1,517名)に対し給食を実施しました。 ・小学校181回、中学校181回給食を実施しました。 ・食に関する巡回指導を78回実施しました。 ・産地を優先した食材選定を心がけました。また、コロナ禍の児童・生徒を応援し、県内畜産農家・食肉事業者を支援するため、愛知県農林水産局が行った「県産牛肉等学校給食提供推進事業」を積極的に活用したこともあり、地産地消率が上昇しました。										
課題		・直営雇用人件費の高騰等により、経費が増加しているため、業務委託等により民間の人材を活用する等、経済的、効率的な運営を図ることが必要です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが該当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の総合・休廃止を検討 B
		○				○			○			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					・令和4年度から、安定的で円滑な運営、学校給食業務の効率化を図る目的で、学校給食調理業務等を委託する予定です。						
	現状維持		○									
	縮小											
	休止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	59	頁
	施策	1 生涯学習	取組	1 生涯学習機会の充実			

事業名		社会教育委員事業									
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係									
目的	誰を・何を(対象)	社会教育委員会議									
	どのようにしたいか(意図)	社会教育に関する諸計画の立案や、振興方策等について社会教育委員からの意見を参考に してより良い会議運営を行います。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)			
		188			190 101%			318 167%			
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0			
	受益者負担	0			0 0			0 0			
	その他特定財源	0			0 0			0 0			
	一般財源	188			190 101%			318 167%			
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		—									
				0			0			0	
指標②		—									
				0			0			0	
主な事業内容		社会教育委員会議									
事業実績		社会教育委員会議を3回実施し、会議の内容についても改善を行いました。									
課題		社会教育委員から活発に意見が出されるよう運営することです。									
評価視点										総合評価	
必要性				有効性			効率性			A A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休廃止を検討	
			○			○			○		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い		
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充						第3回社会教育委員会議から委員の自由意見を述べる機会を増やしました。現状で特に問題はないと考えています。				
	現状維持			○							
	縮小										
	休廃止										
		皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性					

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	59	頁
	施策	1 生涯学習	取組	1 生涯学習機会の充実			

事業名		社会教育一般管理事業									
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係									
目的	誰を・何を(対象)	住民									
	どのようにしたいか(意図)	・生涯学習教室などで学ぶことにより、学習成果を活用したサークル活動等住民の自主的な活動を活発にします。 ・住民自ら教室・講座の企画と運営を行うことにより、学習成果や技能を発揮できるようにします。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)		2021 年度予算額 対前年比(%)				
		3,719			3,173	85%	4,442 140%				
財源内訳	国・県支出金	0			0	0	0 0				
	受益者負担	0			0	0	0 0				
	その他特定財源	0			0	0	0 0				
	一般財源	3,719			3,173	85%	4,442 140%				
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		定員数に対する参加率									%
		56	80	70%	55	80	69%	0	80	0%	
指標②		生涯学習あんない「いきいき生涯学習ネット」掲載団体数(サークル編)※体育・スポーツ、福祉関係除く									%
		112	120	93%	106.0	120	88%	90	120	75%	
主な事業内容		①高齢者教室委託事業(老人会の企画による高齢者向け講座) ②講座教室の内容を冊子にした「生涯学習あんない」を発行 ③家庭教育事業(講演会) ④親子ふれあい委託事業									
事業実績		①高齢者教室委託事業はコロナにより中止しました。 ②「生涯学習あんない」講座・イベント編(年2回)、サークル編(年1回)を発行することにより、生涯学習の機会を提供しました。 ③家庭教育に係る講演会を1回実施することで、親の子どもへの接し方を学ぶ機会を提供しました。 ④親子ふれあいイベントは北中おやじの会活動により実施することで親子のふれあいの機会を提供しました。									
課題		①高齢者教室は内容をよくするため創意工夫を行っていますが参加者数が減少しています。 ②生涯学習あんないの登録団体数は年々減少しています。									

評価視点										総合評価		
必要性			有効性			効率性			A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討			
		○					○			○	A	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い		高い
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充					①老人会に委託することで、高齢者による高齢者のための講座を催す仕組みとなっています。高齢者のニーズにマッチするよう老人会のサポートしながら事業を進め参加者を増やしていきます。 ②生涯学習あんないは、講座を実施後サークルを組織し継続してもらうことで、生涯学習団体の増加が見込めます。魅力的な講座企画や運営を行い、参加者を増やし、定期的な活動を行えるように促していきます。						
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度: 令和 2 年度)

事業名		社会教育一般管理事業		担当課		生涯学習課 生涯学習係		
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	親子ふれあい事業	児童・生徒とその親 親の会	親の会に委託することによ て	子どもとのふれあいのイベン トを実施し、親子の思い出を作 ってもらいます。	2,942	3,278	現状維持	現状維持
2	東浦町高齢者教育事 業委託事業	高齢者、老人会	老人会に委託することによ て	高齢者による高齢者のための 講座を実施し、生きがいや学び の場を設けます。	0	540	現状維持	現状維持
3	PTA連絡協議会補助 事業	東浦町PTA連絡協議会	補助金を交付することによ て	PTA活動を支援し子どもの教 育や地域貢献をしてもらいま す。	72	72	現状維持	現状維持
4	婦人会補助事業	東浦町婦人会連絡協議会	補助金を交付することによ て	婦人会活動を支援し地域に貢 献してもらいます。	14	140	現状維持	現状維持
5	家庭教育事業	住民	講演を開催することによつて	家庭教育への理解が深まりま す。	145	412	現状維持	現状維持
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					3,173	4,442	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり		項	2 生涯学習		掲載	59	頁
	施策	1 生涯学習		取組	3 青少年育成の環境づくり				

事業名		青少年教育事業										
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係										
目的	誰を・何を(対象)	青少年										
	どのようにしたいか(意図)	青少年自らが企画、運営に参加する機会を通して、考え行動する能力を養い、町や地域で活躍できる人材を育みます。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		2,000			1,327 66%			2,197 166%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	2,000			1,327 66%			2,197 166%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		ミュージックフェスティバル参加者数									%	
		350	350	100%	350	350	100%	0	0	0		
指標②		成人式の出席率									%	
		85	100	85%	81	100	81%	83	100	83%		
主な事業内容		①ミュージックフェスティバル委託事業 対象 音楽愛好家(実行委員会は青少年を中心に運営) 内容 音楽イベントの企画及び運営全般 ②成人式委託事業 対象 新成人(実行委員は町内3中学校の卒業生から各6名、計18名選出) 内容 式の企画及び運営全般										
事業実績		①ミュージックフェスティバル事業:コロナにより実施できませんでした。 ②成人式事業:実行委員会4回(コロナ禍で参集が困難でした) 令和3年1月10日成人式 コロナ禍により午前午後と分けて実施 出席者:439名										
課題		①運営スタッフについて青少年の協力者を増やす必要があります。 ②実行委員会への出席率も悪く、実行委員の自発的な行動もあまり見られないため、実行委員自ら考え行動する組織づくりが必要です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善を検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休廃止を検討 A
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充											①高校生の参加を働きかけ青少年の運営スタッフの増員を行い若者の参加につながるものに改善していきたいと考えています。 ②実行委員について、中学校と協力し積極的な人を選出できるようにします。また、実行委員会では、委員主体で動かせるように会の運営を考え、成人式を魅力ある式にしていこうと働きかけていきます。
	現状維持				○							
	縮小											
	休廃止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度:令和 2 年度)

事業名		担当課			生涯学習課 生涯学習係			
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	音楽フェスティバル委託	軽音楽の愛好者	ミュージックフェスティバル実行委員会に委託することで	主に軽音楽によるコンサートイベントを実施し、文化の振興を図る。	55	350	現状維持	現状維持
2	成人式委託	新成人	成人式実行委員会に委託することで	新成人への祝意を表し新成人自ら実行委員会を組織し式を実施し、成人となった自覚を促す。	1,050	1,340	現状維持	現状維持
3	ボーイスカウト補助金	東浦ボーイスカウト第1団、第2団	補助金を交付することで	団を資金的に支援し、社会貢献を促す。	180	180	現状維持	現状維持
4	こどものまち	小中高生	イベントの企画と実施に参加してもらうことによって	体験をとおして成長が期待できる。	0	257	現状維持	現状維持
5	青少年対策	青少年	啓発等の実施によって	青少年の健全育成に寄与する。	42	70	現状維持	現状維持
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					1,327	2,197	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	67	頁
	施策	3 文化振興	取組	3 文化・芸術活動の推進			

事業名		文化芸術活動推進事業										
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係										
目的	誰を・何を(対象)	住民、参加者										
	どのようにしたいか(意図)	生活の中の潤いや安らぎ、創造の喜びのため、文化活動や芸術鑑賞ができ、学習の成果を発表するなどして、住民等が文化の創造と発展の主体となっています。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		2,306			1,345 58%			2,306 171%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	380			219 58%			692 316%				
	その他特定財源	300			300 100%			0 0%				
	一般財源	1,626			826 51%			1,614 195%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		文化協会の会員数									人	
		489	530	92%	443	530	84%	405	530	76%		
指標②		うの花音楽祭の来場者数									人	
		350	350	100%	310	350	89%	0	0	0		
主な事業内容		①文化協会補助金 ②うの花音楽祭委託事業の実施 ・実行委員 東浦町コーラス連盟 ・内容 合唱祭(音楽祭)の企画及び運営 ③落語を楽しむ会委託事業の実施 ・実行委員 落語を楽しむ会実行委員会 ・内容 落語家として活躍する地元出身者(半田市・東浦町)による寄席の企画及び運営										
事業実績		以下の事業を住民が主体的に取り組み実施することで文化芸術の振興に寄与しました。 ①文化協会補助金 「コロナに負けない文化展」等の展示会、盆梅展、将棋大会等を実施 ②うの花音楽祭 Special Editionとして無観客収録を行い知多メディアスで放送を実施(出演者46名) ③落語を楽しむ会 令和2年12月27日(日)に開催 来場者:140名										
課題		①文化協会の会員の高齢化が進み、会員数が減少傾向にあり、会員の新規加入が難しい状況です。文化・芸術活動は多様化しており、従来の枠組みでは対応できない面もあります。 ②出演者が固定化しているため、一般団体の募集をしていますが、町外団体などの参加には至っていません。(令和2年度の参加率は考慮せず)										
評価視点								総合評価				
必要性				有効性				効率性				B
	○				○				○			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					①幅広い年齢層を対象とした参加型の展示等を行って文化・芸術へ触れる機会を増やすことで、新規会員を増やせるよう文化協会を支援します。						
	現状維持			○		②一般団体の募集を行う際に、広報及びHPのほか、FacebookやTwitter等の町SNSに加え、ポスターを作成する等周知方法の検討を行い参加団体が増えることで祭典を盛り上げ、来場者数の増加につなげます。						
	縮小											
	廃止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度:令和 2 年度)

事業名		文化芸術活動推進事業		担当課	生涯学習課 生涯学習係			
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	盆踊り講習会事業	各コミュニティ	講師による講習	盆踊りの練習機会を提供し地域振興に寄与します。	0	315	現状維持	現状維持
2	東浦町音楽祭委託事業	コーラス団体	うのはな音楽祭の実施	20年続くうのはな音楽祭を実施し、歌唱コーラスの振興と文化芸術の発展に寄与します。	180	180	現状維持	現状維持
3	講座等開催委託事業	住民	落語を楽しむ会の実施	落語をとおして文化芸術への興味や理解を深めます。	425	425	現状維持	現状維持
4	文化協会補助事業	文化協会	補助金を交付して	文化芸術団体を支援しその振興発展を図ります。	740	1,386	現状維持	現状維持
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					1,345	2,306	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	59	頁
	施策	1 生涯学習	取組	1 生涯学習機会の充実			

事業名		文化センター事業										
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係										
目的	誰を・何を(対象)	文化センター利用者										
	どのようにしたいか(意図)	幅広い分野や専門性の高い内容の教室・講座を開催することで、サークル活動等を盛んにします。また、利用者自身で企画や立案、運営を行うマイスタディー講座やマイプロデュース講座を行い自主的な活動を促します。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		3,244			4,312 133%			6,136 142%				
財源内訳	国・県支出金	0			488 0			1,374 282%				
	受益者負担	396			224 57%			749 334%				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	2,848			3,600 126%			4,013 111%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		文化センターの新規教室講座参加率									%	
		75	75	100%	77	75	103%	76	75	101%		
指標②		定員に対する受講者率									%	
		73	75	97%	75.0	75	100%	80	75	107%		
主な事業内容		・子ども向け、託児付、青少年、料理、その他一般(団塊世代、男性向け等)講座 ・マイスタディー講座(学びたい人が自ら企画・運営) ・マイプロデュース講座(教えたい人が自ら企画・運営) ・ICTプログラミング講座										
事業実績		・コロナ禍の状況下、以下の回数講座を実施したことにより生涯学習の振興に及び自主的な活動の促進に寄与しました。 講座数 18講座 開催回数 45回 受講者数 193人 定員数242 受講率80% うちマイプロデュース講座 講座数 3講座 開催回数 10回 受講者数 16人 定員数28 受講率57% ・また、新たにICTプログラミング講座を実施し、将来的なICT教育の発展に向けた取組みにつなげることができました。 ロボットコース 20名 ゲームコース10名 受講率100%										
課題		・コロナ禍により講座数は減少しました。子ども向けの講座は人気がありますが、大人向けの講座では定員の半分に満たず、開催できない講座もありました。住民のみなさんのニーズを把握し、地域・世代間の連携・交流を促す講座など、興味を持ってもらえる講座の計画が必要です。 ・ICTプログラミング講座が、自立したクラブの設立につなげられるかが課題です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				B
		○			○			○				
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性										事業の改善点・今後の具体的な取組等		
成果の方向性	拡充							・講座終了時、受講者にアンケートを行い、ニーズの把握をして新規講座の開設や既存講座の改善に繋げていきます。また、魅力的な講座名やキャッチコピーをつけるなど、住民のみなさんに興味を持ってもらえるように広報活動をしていきます。 ・ICT教育の実施に向けた取り組みが、自立したICTクラブの設立等に発展できるよう指導者の育成を考えていきます。				
	現状維持		○									
	縮小											
	休止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ハード

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	60	頁
	施策	1 生涯学習	取組	4 社会教育施設の整備			

事業名		文化センター施設整備事業										
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係										
目的	誰を・何を(対象)	文化センター										
	どのようにしたいか(意図)	必要な改修工事等を行い、建物の性能を維持することで、今後も長く使用していくことができる施設にします。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		638			9,389 1472%			17,909 191%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	638			9,389 1472%			17,909 191%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		—			—			—				
				0			0			0		
指標②		—			—			—				
				0			0			0		
主な事業内容		軽微な修繕を除き、文化センター施設の維持に必要な工事の実施が主な事業になります。令和2年度は、外壁全面の修繕工事と一部非常時防火扉の改修、非常階段の補修等を行いました。										
事業実績		文化センターを今後も長く使用していくため、外壁工事により建物の耐久性の維持と内部漏水の防止および非常時防火扉の機能の回復をすることができました。										
課題		建設から44年経過しているため、施設の修繕が今後も必要になると考えられます。60年から80年施設を使っていけるように状態をみて計画的に修繕していく必要があります。										
評価視点											総合評価	
必要性				有効性				効率性			A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 O:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・廃止を検討	
			○				○				○	A
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					今後の改修について、計画的に実施していきます。2029年に屋根防水の改修を計画しています。また、今後も、建物を長く使っていくため、劣化や故障がないか継続的に注視していく必要があります。照明のLED化について検討を行います。						
	現状維持			○								
	縮小											
	廃止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	59	頁
	施策	1 生涯学習	取組	1 生涯学習機会の充実			

事業名		地区コミュニティセンター等事業									
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係									
目的	誰を・何を(対象)	地区コミュニティセンター等利用者									
	どのようにしたいか(意図)	地区の文化活動の拠点として、住民のみなさんのニーズに応じた各種教室・講座を開催され、誰もが生涯にわたって自由に学び、成果を活かすことができます。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)			
		500			186 37%			522 281%			
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0			
	受益者負担	270			104 39%			352 338%			
	その他特定財源	0			0 0			0 0			
	一般財源	230			82 36%			170 207%			
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		地区コミュニティセンター等の新規教室・講座参加者率									%
		82	75	109%	77	75	103%	90	75	120%	
指標②		地区コミュニティセンター等で実施する講座教室の定員に対する受講者率									%
		84	75	112%	75.0	75	100%	84	75	112%	
主な事業内容		・子ども向け、料理、運動、その他一般(団塊世代、男性向け等)講座 講座数 8講座 開催回数 23回 受講者数 70人 定員に対する受講者割合 84%									
事業実績		コロナ禍の状況下、以下の講座実施数等により生涯学習の振興に及び自主的な活動の促進に寄与しました。 森岡コミュニティセンター 講座数 2講座 開催回数 6回 受講者数 17人 定員数20 受講率85% 緒川コミュニティセンター 講座数 1講座 開催回数 4回 受講者数 5人 定員数10 受講率50% 卯ノ里コミュニティセンター 講座数 0講座 開催回数 0回 受講者数 0人 定員数0 受講率0% 石浜コミュニティセンター 講座数 3講座 開催回数 7回 受講者数 32人 定員数35 受講率91% 生路コミュニティセンター 講座数 1講座 開催回数 1回 受講者数 6人 定員数8 受講率75% 藤江公民館 講座数 1講座 開催回数 5回 受講者数 10人 定員数10 受講率100%									
課題		75%の参加率を目標に実施していますが、人気があるものだけではなく新しい講座メニューを見つける試みが必要と考えています。									
評価視点										総合評価	
必要性			有効性			効率性				A	
低い やや低い やや高い 高い			低い やや低い やや高い 高い			低い やや低い やや高い 高い					
○			○			○					
今後の方向性			事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充						地域による地域のための講座を開催していきます。また、各地区のニーズを把握して新規講座の開設や既存講座の改善に繋げ、魅力的な講座名やキャッチコピーをつけるなど、住民のみなさんに興味を持ってもらえるように広報活動をしていきます。				
	現状維持				○						
	縮小										
	休止										
		増減	縮小	現状維持	拡大						
		コスト投入の方向性									

区分	ハード
----	-----

事業名		地区コミュニティセンター等施設整備事業										
担当課		教育部 生涯学習課 生涯学習係										
目的	誰を・何を(対象)	地区コミュニティセンター(藤江を除く)及び藤江公民館										
	どのようにしたいか(意図)	必要な改修工事等を行い、建物の性能を維持することで、今後も長く使用していくことができる施設にします。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		5,001			58,120 1162%			72,773 125%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	5,001			58,120 1162%			72,773 125%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		—			—			—				
				0			0			0		
指標②		—			—			—				
				0			0			0		
主な事業内容		・緒川コミュニティセンターの駐車場修繕及びトイレ・外壁等修繕工事の実施 ・生路コミュニティセンターの屋根防水補修工事										
事業実績		・緒川コミュニティセンターの駐車場のひび割れを解消及び建物の耐久性の向上、トイレの利便性の向上が達成されました。 ・生路コミュニティセンターの雨漏りを解消しました。										
課題		所管施設は、建物から40年以上経過している施設が多く、改修の時期を迎えています。修繕等を計画的に行う必要があります。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討 A
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					施設の構造部分については、個別施設計画に基づき改修工事を実施していく必要があります。また、まだ見つかっていない故障・劣化がないか継続的に注視していく必要があります。照明のLED化について今後検討していく必要があります。						
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	67	頁
	施策	3 文化振興	取組	2 郷土の伝統文化の継承			

事業名		文化財保護事業										
担当課		教育部 生涯学習課 文化財係										
目的	誰を・何を(対象)	文化財及び伝統文化										
	どのようにしたいか(意図)	・国・県・町指定文化財や郷土の伝統文化の保存継承活動を支援し、後世に伝えます。 ・町内に残る文化財を多くのみなさんに知ってもらい、文化財の保護へつなげます。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		1,161			1,836 158%			3,299 180%				
財源内訳	国・県支出金	10			10 100%			10 100%				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	1,151			1,826 159%			3,289 180%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		—										
				0			0			0		
指標②		—										
				0			0			0		
主な事業内容		①文化財補助金の交付 ・東浦町文化財保存事業費補助金交付要綱に基づき、指定文化財の所有者や保存団体等へ補助金を交付。4団体172,000円 ②文化財説明板等の修繕等 ・7基修繕。新規1基設置(合計60基設置)。 ③文化財保護審議会の開催 ・年1回実施										
事業実績		①新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の祭礼が中止となり、補助事業が中止になった保存団体がありましたが、工夫して事業を実施した保存団体もあり、継承への取り組みが続けられています。 ②定期的に修繕することにより、文化財等そのものがある場所で周知し、身近にある文化財に触れることができます。また、令和2年度は新規に1基設置し、新たな文化財を周知することができました。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた会議回数が実施できませんでした。										
課題		①地域の伝統文化に対して関心が低くなり、伝統文化の担い手が少なくなっています。 ②場所が分かりにくい文化財があります。また、設置したくても設置可能な場所がない場合があります。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性										事業の改善点・今後の具体的な取組等		
成果の方向性	拡充							①町内各地域の伝統文化の保存会が集まって情報交換する機会を設けるとともに活動を紹介するなどして保存会を支援していきます。				
	現状維持			○				②指定文化財や関心の高い文化財については、ホームページ等へ場所や案内を掲載して広報することが必要です。				
	縮小											
	休止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度:令和 2 年度)

事業名		文化財保護事業		担当課	生涯学習課 文化財係			
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	文化財保護審議会事業	文化財保護審議会委員	会議を開催して	町指定文化財の指定等を審議してもらいます。 町内の文化財の保護について協議してもらいます。	35	140	現状維持	現状維持
2	文化財保護事業	住民	文化財説明板等を設置して	東浦町の歴史や文化財等を知ってもらいます。	1,629	2,947	現状維持	現状維持
3	文化財補助事業	指定文化財の所有者・保存団体等	補助金を交付して	指定文化財の保存・継承を図ってもらいます。	172	212	現状維持	現状維持
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					1,836	3,299	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ハード

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	67	頁
	施策	3 文化振興	取組	1 郷土の歴史・文化財の保存・活用			

事業名		天白遺跡事業										
担当課		教育部 生涯学習課 文化財係										
目的	誰を・何を(対象)	天白遺跡										
	どのようにしたいか(意図)	天白遺跡は、調査で大規模な遺跡であったことが明らかになったため、遺跡公園を整備し、古くから人々の暮らしが営まれた歴史ある町であることを紹介します。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		5,410			990 18%			19,467 1966%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			5,100 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	5,410			990 18%			14,367 1451%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		—										
				0			0			0		
指標②		—										
				0			0			0		
主な事業内容		土地区画整理事業地内の公園に、調査で見つかった竪穴建物等の遺構を表現し、遺跡を紹介する遺跡公園整備のための設計業務を行うものです。										
事業実績		令和3年度に実施する遺跡公園整備工事のため、設計書を作成しました。										
課題		遺跡公園としての表現方法や、分かりやすさ、使いやすさ、耐久性、安全性等を備えたものができるかどうかが課題です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A A:計画どおりに事業を進めることが適切 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業提供・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性										事業の改善点・今後の具体的な取組等		
成果の方向性	拡充					竪穴建物等の遺構を表現するという公園整備例は他の類例はなく、公園完成後の運用を考える必要があります。近くにある入海貝塚及び郷土資料館を関連付けて、古代の人々の暮らし等を学ぶ機会につなげていきます。						
	現状維持											
	縮小		○									
	休止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性						

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	67	頁
	施策	3 文化振興	取組	1 郷土の歴史・文化財の保存・活用			

事業名		郷土資料館事業									
担当課		教育部 生涯学習課 文化財係									
目的	誰を・何を（対象）	来館者及びガイドボランティア									
	どのようにしたいか（意図）	・郷土の歴史や文化財の情報発信及び学習機会を提供することで、東浦の歴史や文化財への関心や親しみを高め、郷土に対する愛着を持ってもらいます。 ・ガイドボランティアを育成し、郷土の魅力を伝えてもらいます。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)			
		3,692			4,169 113%			6,402 154%			
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0			
	受益者負担	611			233 38%			806 346%			
	その他特定財源	0			0 0			0 0			
	一般財源	3,081			3,936 128%			5,596 142%			
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		郷土資料館の来館者数									人
		24,354	25,200	97%	24,133	30,000	80%	14,974	30,000	50%	
指標②		東浦ふるさとガイド協会の会員数									人
		38	46	83%	35	40	88%	35	40	88%	
主な事業内容		①企画展の開催 ・秋の企画展:「火伏・火消・消防 一消防の歴史とその道具たち」、入館者数2,825人 ・ミニ企画展4回開催 ②東浦ふるさとガイド協会の育成支援のためのガイドボランティア養成講座の開催 ・ガイドボランティア養成講座:1講座3回、受講者数10人 ・東浦ふるさとガイド協会の会員数:35人(新規会員数1名) ③東浦の歴史や文化財に関する講座や陶芸教室の開催 ・歴史関係講座:2講座40人、陶芸関係講座:4講座29人									
事業実績		①新型コロナウイルス感染症防止による施設休館のため、春の企画展は中止となりましたが、秋の企画展は開催でき、郷土の歴史の情報発信を行いました。 ②新型コロナウイルス感染症防止のため、回数及び定員を減らしての開催となりました。 ③新型コロナウイルス感染症防止のため、中止又は定員を減らしての開催となりましたが、郷土の歴史についての学習機会を提供できました。									
課題		①資料館の認知度や企画展の情報が十分知られていません。 ②ガイドボランティアの新規会員の減少、会員の高齢化が進んでいます。 ③子どもや若い世代の参加が少ないです。									
評価視点								総合評価			
必要性				有効性				効率性			
低い やや低い やや高い 高い				低い やや低い やや高い 高い				低い やや低い やや高い 高い			
○				○				○			
A											
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充						①多くの人に企画展へ来館してもらえるよう、効果的な宣伝や興味・関心を持ってもらえる展示内容を考えていきます。				
	現状維持			○			②ガイドボランティアの活動に興味を持ってもらえるよう、ガイドボランティアと協力して、活動内容の紹介等を行います。				
	縮小						③資料館が開催する子ども向けの講座に参加してもらえるよう、内容や開催日時の検討を行います。				
	休止						①②③とあわせて、全小学校への来館学習を働きかけ、学校との連携を進めて、来館者数の増加へつなげます。				
コスト投入の方向性											
皆減 縮小 現状維持 拡大											

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度:令和 2 年度)

事業名		郷土資料館事業		担当課		生涯学習課 文化財係		
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	企画展開催事業	住民	収蔵資料等を活用し、企画展を開催して	東浦町の歴史や文化財への関心や親しみを高めてもらいます。	979	2,023	現状維持	現状維持
2	ガイドボランティア養成講座事業	ガイドボランティアになる意欲がある住民	講座を開催して	東浦ふるさとガイドボランティア協会の会員になってもらいます。	43	52	現状維持	現状維持
3	講座開催事業	住民	講座・教室を開催して	東浦町の歴史や文化財への関心や親しみを高めてもらいます。	417	819	現状維持	現状維持
4	郷土資料館関連事業	住民	パンフレットや図書の印刷、収蔵資料等の保存活用をすることで	東浦町の歴史や文化財への関心や親しみを高めてもらいます。	2,730	3,508	現状維持	現状維持
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					4,169	6,402	現状維持	現状維持

区分 ハード

事業名		郷土資料館管理事業										
担当課		教育部 生涯学習課 文化財係										
目的	誰を・何を(対象)	郷土資料館及び収蔵資料等										
	どのようにしたいか(意図)	・東浦の歴史を語る貴重な資料を適正に維持管理し、後世へ伝えます。 ・設備等の保守や修繕等を行い、適正に維持管理します。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		12,787			14,978 117%			16,353 109%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	210			176 84%			245 139%				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	12,577			14,802 118%			16,108 109%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		—										
				0			0			0		
指標②		—										
				0			0			0		
主な事業内容		①施設の保守点検委託 ・10委託業務 ②施設の修繕・工事 ・LED照明取替修繕										
事業実績		①施設の保守点検委託を行い、施設の適正な維持管理を行うことができました。 ②計画的に施設の修繕・工事を行っています。令和2年度は、老朽化した照明をLEDへ取替修繕を行い、施設環境を整えることができました。										
課題		・資料の保管場所が不足しており、新たな保管場所が必要です。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業原価・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休廃止を検討 A
			○				○				○	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充										・資料の保管場所を増やせないか場所・建物を検討します。 ・施設建設後22年経過しており、今後は大規模な修繕・工事が必要になることが想定されるため、より計画的に更新を行い施設の長寿命化を図ります。	
	現状維持			○								
	縮小											
	休廃止											
		削減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性						

区分	ソフト
----	-----

事業名		中央図書館運営事業										
担当課		教育部 図書館 図書館係										
目的	誰を・何を(対象)	利用者、資料										
	どのようにしたいか(意図)	・図書館資料の貸出し、レファレンス、相互貸借、イベント等を実施することで、読書のきっかけづくりや継続的な読書活動につなげます。 ・継続的な図書館資料の購入とリサイクル事業によって適切な図書館資料の所蔵数を保持します。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		39,434			43,172 109%			45,071 104%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	50			55 110%			58 105%				
	一般財源	39,384			43,117 109%			45,013 104%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		イベント・講座の開催数									件	
		21	12	175%	15	11	136%	9	16	56%		
指標②		図書館資料の購入点数									点	
		4,541	4,695	97%	4,383	4,950	89%	4,914	4,950	99%		
主な事業内容		・図書館資料の貸出し、レファレンス、相互貸借、講座等の実施 ・図書館資料購入 ・リサイクルフェア ・子ども読書活動推進										
事業実績		次の事業を行い、読書活動に寄与しました。 ・図書館資料の貸出し点数：一般書88,985点、児童書86,282点、視聴覚資料9,729点、雑誌14,289点 ・各種講座、イベントの実施：3講座、3イベント、よむらびカフェ(2回)、よむらびフェスタ、クリスマス会等を実施 ・レファレンス件数：490件 ・相互貸借件数：貸159点、借401点 ・リサイクルフェア：譲渡冊数7,985点 ・子ども読書活動推進：読み聞かせ会、読書通帳、発達段階に応じたブックリスト、よむらび通信、中央図書館だより、ブックスタート、図書館見学の受け入れ、図書資料の学級文庫への巡回、学校図書館担当者との情報交換(隔月)										
課題		新型コロナウイルスのまん延を契機として、人々のオンライン上での活動がますます盛んになる可能性が高いことから、電子書籍の導入など図書館に来ずとも読書活動ができる機会を提供することができるよう求められています。										
評価視点										総合評価		
必要性			有効性			効率性				A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止止を検討		
		○				○		○			B	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い		高い
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充			○		図書館を取り巻く社会的環境の変化、それに伴う図書館に対するニーズの変化に対応するために、民間の力を借りて図書館を運営していく指定管理者制度の導入を検討しています。						
	現状維持											
	縮小											
	休止											
皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性												

区分	ソフト
----	-----

事業名		中央図書館管理事業										
担当課		教育部 図書館 図書館係										
目的	誰を・何を（対象）	図書館施設（設備）、利用者、図書館職員										
	どのようにしたいか（意図）	・図書館施設（設備）の適切な管理と長寿命化を図ります。 ・利用者の読書活動の利便性を高めるため情報化を推進します。 ・業務の効率化を図るため情報化を推進します。										
事業費（千円）		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比（％）			2021 年度予算額 対前年比（％）				
		21,219			43,942 207%			27,176 62%				
財源内訳	国・県支出金	0			1,120 0			0 0%				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	64			158 247%			225 142%				
	一般財源	21,155			42,664 202%			26,951 63%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		Webによる図書資料の予約件数									件	
		6,490	8,000	81%	6,090	8,000	76%	5,860	8,000	73%		
指標②		Wifi利用実績（接続端末数）									台	
		2,334	2,330	100%	2,273	2,151	106%	1,139	1,908	60%		
主な事業内容		・施設の保守、修繕、改修工事 ・図書館システムによる図書の管理 ・インターネット閲覧パソコンの提供 ・Wifi環境の提供										
事業実績		次の事業を実施し、施設の安全性や利便性を高めました。 ・実施した改修工事 中央図書館防火シャッター改修工事（2,310千円） 中央図書館閉架書庫改修工事（7,854千円） 中央図書館内装・外壁改修工事（12,050千円）（R3年度へ繰越） ・Webによる図書資料の予約件数：5,860件 ・インターネットパソコン利用実績：319件 ・Wifi利用実績（接続端末数）1,139台										
課題		施設の管理については、施設が老朽化していくので、再配置、複合施設化などを議論していく必要があります。 情報化への対応については、より便利で効率的な図書の管理ができるICタグの導入を検討する必要があります。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A：計画どおりに事業を進めることが該当 B：事業の進め方の改善の検討 C：事業規模・内容・主体の見直しを検討 D：事業の統合・休廃止を検討 B
			○			○			○			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充					効率的な図書館の管理を実現するため、大規模工事を除く管理事業については、民間の力を借りて図書館を運営していく指定管理者制度の導入を検討しています。						
	現状維持			○								
	縮小											
	休廃止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	63	頁
	施策	2 スポーツ振興	取組	1 子どもたちの体力向上			

事業名		社会体育一般事業										
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係										
目的	誰を・何を(対象)	住民										
	どのようにしたいか(意図)	スポーツへの関心を高めます。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		7,126			2,620 37%			7,419 283%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	7,126			2,620 37%			7,419 283%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		東浦マラソン参加者数									人	
		2,615	4,000	65%	2,296	3,000	77%	—	3,000	0		
指標②												
				0			0			0		
主な事業内容		・東浦マラソンの実施(12月第3日曜日、あいち健康の森公園メイン会場) ・スポーツ少年団駅伝大会の実施(於大公園) ・ランニングイベント(大府市、愛三工業と合同)の実施(7月高校生以上、3月小学生以下) ・全国大会等出場者に対する激励金交付事業の実施(R2～5千円) ・スポーツ協会への補助金の交付 ・スポーツ少年団への補助金の交付										
事業実績		・激励金交付について、交付にあたって激励会等を行い、町広報や新聞社等のメディアに掲載することによって、スポーツへの関心を高めることができた。(交付回数:個人12、団体数1) ・スポーツ協会、スポーツ少年団へ補助金を交付することにより、地域におけるスポーツ活動を活性化することができた。										
課題		・東浦マラソンでは参加者 数が年々減少傾向にある他、運営事業収入4分の1を占める企業からの協賛金が減少しています。 ・ランニングイベントでは、中学生の参加区分がありません(部活動があるため)。 ・スポーツ協会登録者数が減少しています。										
評価視点							総合評価					
必要性			有効性			効率性			A:計画どおりに事業を進めることが該当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討			
		○			○		○		B			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い				
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等							
成果の方向性	拡充					・東浦マラソンについて、参加者や企業からの協賛金の減少を見込みつつ、他市町の実施状況を参考に運営費を見直します。また、コロナウイルス感染拡大防止対策を行った大会運営を行います。 ・ランニングイベントについて、中学生も参加できるよう、参加区分を見直します。 ・スポーツ協会について、登録者を増やすため広報やHP等で活動の周知を図ります。						
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
コスト投入の方向性												
					皆減	縮小	現状維持	拡大				

区分	ソフト
----	-----

事業名		スポーツ推進委員事業										
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係										
目的	誰を・何を（対象）	住民										
	どのようにしたいか（意図）	スポーツ推進委員が指導するスポーツイベントに参加してもらうことにより、健康増進の意識を高め、体力を向上させます。										
事業費（千円）		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比（％）			2021 年度予算額 対前年比（％）				
		2,392			2,470 103%			2,594 105%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	0			0 0			0 0				
	その他特定財源	0			0 0			0 0				
	一般財源	2,392			2,470 103%			2,594 105%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		スポーツイベント参加者数									人	
		255	380	67%	300	380	79%	0	380	0%		
指標②		みんなでスポーツを楽しむ会 開催回数									回	
		103	144	72%	97.0	144	67%	77	144	53%		
主な事業内容		・スポーツイベントの開催 ・体育の日イベント、スポーツフェスタ東浦、カローリング大会、ウォーキング大会 ・みんなでスポーツを楽しむ会の開催 ・各地区でのスポーツ推進活動										
事業実績		住民の健康増進の意識を高め、体力向上に寄与しました。 ・スポーツイベント開催回数：1回 （参加人数 ウォーキング大会：27名） ・みんなでスポーツを楽しむ会開催回数：77回 （開催回数内訳 卯ノ里小：22回、片葩小24回、生路小：7回、藤江コミュニティセンター：24回）										
課題		・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の実績は昨年より少なくなっていますが、例年参加人数が伸び悩んでいます。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できない期間があったため、例年より実績が減っていますが、各地区での開催回数や参加人数に偏りがあります。										
評価視点										総合評価		
必要性				有効性				効率性				A:計画どおりに事業を進めることが該当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休止を検討 B
		○			○		○					
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充										・広報やHPだけでなく、広告を作成して学校やサークル活動をされている方々へアピールするなど、広報活動の幅を広げます。 また、他団体（コミュニティ・学校等）とイベントを共催するなど参加者の拡大に努めます。 ・スポーツイベントについて、住民のニーズを把握し、ニュースポーツ等の魅力あるスポーツを推進します。 ・みんなでスポーツを楽しむ会について、スポーツ推進委員だよりを戸別配布し、参加者拡大に努めます。	
	現状維持				○							
	縮小											
	休止											
		削減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性						

区分 ソフト

事業名		生涯スポーツ振興事業									
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係									
目的	誰を・何を(対象)	住民									
	どのようにしたいか(意図)	運動の機会を増やし、体力を向上させるとともに、運動による健康増進への意識を高めます。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)			
		1,901			558 29%			2,210 396%			
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0			
	受益者負担	481			0 0%			630 0			
	その他特定財源	0			0 0			0 0			
	一般財源	1,420			558 39%			1,580 283%			
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		スポーツ教室への受講者数									人
		268	280	96%	201	280	72%	0	280	0%	
指標②		スポーツ指導者養成講習会への延参加者数									人
		137	180	76%	167	180	93%	100	180	56%	
主な事業内容		・住民向けのスポーツ教室の実施 ・児童の体力向上プロジェクトの実施 ・高齢者向けの体力測定(てんとう虫テスト)の実施 ・小中学校運動部活動に対する外部指導者派遣の実施 ・スポーツ指導者向けの講習会の実施									
事業実績		・高齢者向けの体力測定(てんとう虫テスト)を実施することで、参加者へ介護予防に対する意識づけを行うことができた。(実施回数1回) ・町内小学校の運動部活動に対して外部指導者24名を派遣することで、部員に対し専門的な指導ができ、学校部活動を充実させることができた。(派遣数24名)また、派遣先小中学校の教員の負担を軽減することができた。 ・スポーツ指導者養成講習会を実施することで、地域スポーツの指導者の素養を育むことができた。									
課題		・スポーツ教室について、大人向け教室の参加人数が少ないため、開催する講座の内容を工夫する必要があります。また、申込が窓口記述式のため、窓口対応と申込入力作業等で業務が煩雑化しています。 ・てんとう虫テストについて、参加者数が伸び悩んでいます。 ・学校における休日部活動の段階的な地域移行に伴い、受け入れ体制が必要です。									
評価視点								総合評価			
必要性				有効性				効率性			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い
		○				○				○	
B											
今後の方向性								事業の改善点・今後の具体的な取組等			
成果の方向性	拡充							・講座の受付手続等にあいち電子申請システムを活用するなど、インターネット上での手続や、非対面での手続を進めることで窓口事務負担と担当業務の軽減を図ります。			
	現状維持				○			・依頼を受け、テストを実施することが多いため、今後は高齢者の集客が見込まれるイベント等へ出向き、参加者を増やします。また、高齢者相談支援センター、スポーツ推進委員、健康課等関係機関と連携して、てんとう虫テストの周知・啓発を行います。			
	縮小							・地域の活動団体の把握やスポーツ指導者人材バンクを活用するなど、受け入れ体制の確保に努めます。			
	休廃止										
コスト投入の方向性											
削減 縮小 現状維持 拡大											

令和 3 年度 細事業評価シート (評価対象年度: 令和 2 年度)

事業名		生涯スポーツ振興事業		担当課	スポーツ課		スポーツ係	
No.	細事業名	概要			2020(R2) 年度 決算額 (千円)	2021(R3) 年度 予算額 (千円)	今後の方向性	
		対象	手段	意図			成果	コスト
1	スポーツ団体・指導者 支援事業	スポーツ団体・スポーツ指導者	スポーツ団体への補助金交 付や、指導者の育成・派遣	スポーツ活動に参加しやすい 環境の充実を図ります。	558	850	現状維持	現状維持
2	生涯スポーツ振興事 業	住民	イベント等の開催・子ども向け のスポーツ面での支援	スポーツを始めるきっかけづく りや健康への意識醸成、子ど もの体力向上等を図ります。	0	1,360	現状維持	現状維持
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
事務事業合計					558	2,210	現状維持	現状維持

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度:令和 2 年度)

区分 ハード

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり				項	2 生涯学習			掲載	64	頁
	施策	2 スポーツ振興				取組	1 子どもたちの体力向上					

事業名		体育館・はなのき会館管理事業													
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係													
目的	誰を・何を(対象)	体育館及びはなのき会館													
	どのようにしたいか(意図)	利用者が満足できるスポーツ環境の確保に向けて、利用受付や維持管理を行います。													
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)							
		22,672			30,633 135%			33,056 108%							
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0							
	受益者負担	2,903			2,936 101%			3,352 114%							
	その他特定財源	156			104 67%			193 186%							
	一般財源	19,613			27,593 141%			29,511 107%							
評価指標		2018			2019			2020			単位				
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率					
指標①		延べ利用者数										人			
		77,458	76,996	101%	72,099	77,000	94%	48,658	72,000	68%					
指標②															
				0			0			0					
主な事業内容		施設を安全・快適に利用できるよう、体育館及びはなのき会館の利用受付と維持管理を行います。													
事業実績		【R2.3/5～R2.6/15まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉館。また、R3.1/15～R3.2/28は利用時間を短縮し閉館】 利用件数および利用者数 体育館 H30:5,198件/70,315人 R1:4,803件/65,654人 R2:4,210件/46,734人 はなのき会館 H30:395件/7,143人 R1:333件/6,445人 R2:170件/1,924件 施設の維持・管理(修繕)件数 体育館駐車場修繕はじめ11件 施設の維持・管理(業務委託)件数 電気施設保守点検業務はじめ6件 平時の保守点検・清掃や修繕により、利用者が安全・快適に使用できる状態を保持できています。													
課題		・施設、付属設備の老朽化が進んでいるため、計画的な改修などが必要ですが、施設の改修・更新には多額の費用がかかります。 ・町スポーツ協会の加入者数の減少や少子化の影響等で、施設利用者が減少しています。 ・施設利用中止時の利用者への個別連絡に時間がかかり、負担になっています。 ・予約管理体制がシステムと紙台帳が混在しているため、受付や集計業務に時間を要します。													
評価視点								総合評価							
必要性				有効性				効率性				B			
		○			○			○							
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い				
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等											
成果の方向性	拡充				・町公共施設個別施設計画に沿って、計画的な施設改修や設備の更新を行います。また、各種助成金制度の活用するなど財源の確保に努めます。 ・近隣市町と比較しながら、使用料の見直しについて検討します。 ・ホームページを活用し、より多くの利用者に情報を周知します。 ・紙台帳のものはシステムへ移行します。また、申請、承認に伴う様式などを見直し、窓口業務の時間短縮など事務の効率化に努めます。										
	現状維持			○											
	縮小														
	休止														
		皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性									

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ソフト

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	63	頁
	施策	2 スポーツ振興	取組	3 スポーツ活動団体の育成			

事業名		学校体育施設スポーツ開放事業									
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係									
目的	誰を・何を(対象)	町内小中学校の体育施設									
	どのようにしたいか(意図)	住民が身近でスポーツに親しみ、交流する場とします。									
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)			
		1,937			1,110 57%			651 59%			
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0			
	受益者負担	1,480			1,034 70%			651 63%			
	その他特定財源	0			0 0			0 0			
	一般財源	457			76 17%			0 0%			
評価指標		2018			2019			2020			単位
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	
指標①		延べ利用者数									人
		81,913	86,000	95%	83,155	86,000	97%	58,184	86,000	68%	
指標②		登録団体数									団体
		99	100	99%	95.0	100	95%	104	100	104%	
主な事業内容		町内の各小・中学校の体育館や運動場を学校教育の運営に支障のない範囲内で、住民が利用できるように開放しています。									
事業実績		【R2.2/28～R2.6/30まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため開放中止。R3.1/15～R3.2/28まで夜間開放中止。】 既存団体を含め、空き状況を周知し新規登録団体の増加に努めました。 団体数(団体) 利用回数(回) 延べ利用者数(人) 登録者数(人)									
		H30	99		4,429		81,913		3,628		
		R1	95		4,366		86,375		3,570		
		R2	104		2,963		58,184		3,325		
課題		・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い開放を中止していた期間があるため、利用回数及び利用者数ともに減少しています。利用申込の受付期間が2月から3月までの1か月のみのため、年度途中からの利用ができません。 ・登録や利用中止に関する事務が煩雑です。また、予約管理体制が紙台帳のみのため、情報の集約に時間がかかります。									
評価視点								総合評価			
必要性			有効性			効率性			A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善を検討 C: 事業規模・内容・主体の見直しを検討 D: 事業の統合・休止を検討		
		○			○			○			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い			
今後の方向性					事業の改善点・今後の具体的な取組等						
成果の方向性	拡充					・利用申請受付を10月にも行い、利用団体数の増加に努めます。 ・ホームページを活用し、より多くの利用者に情報を広く周知します。また、事務の効率化を図るため、メール等の電子媒体での申請書提出、施設管理を紙台帳からシステムに移行します。					
	現状維持			○							
	縮小										
	休止										
		皆減	縮小	現状維持	拡大						
		コスト投入の方向性									

令和 3 年度 事務点検・評価表 (評価対象年度: 令和 2 年度)

区分 ハード

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	64	頁
	施策	2 スポーツ振興	取組	4 スポーツ施設の整備			

事業名		グラウンド・コート管理事業										
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係										
目的	誰を・何を(対象)	グラウンド・コート										
	どのようにしたいか(意図)	住民が満足できるスポーツ環境の確保に向けて、維持管理を行います。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		15,186			17,623 116%			28,124 160%				
財源内訳	国・県支出金	0			0 0			0 0				
	受益者負担	7,255			7,223 100%			7,800 108%				
	その他特定財源	79			60 76%			59 98%				
	一般財源	7,852			10,340 132%			20,265 196%				
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		グラウンド・コート延利用者数									人	
		117,058	136,200	86%	107,339	136,200	79%	87,495	136,200	64%		
指標②												
				0			0			0		
主な事業内容		町内に設置している以下の体育施設の維持管理を行います。 《管理施設》 町営第1グラウンド、町営第2グラウンド、南部グラウンド、北部グラウンド、西部グラウンド、文化広場テニスコート、岡田川テニス場、東浦みどり浜緑地多目的広場										
事業実績		【R2.3/5～R2.5/31まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。また、緊急事態宣言発令中は利用時間を短縮し再開】 利用件数および利用者数 グラウンド H30:2,203件/79,390人 R1:1,952件/67,908人 R2:1,782件/58,365人 テニスコート H30:5,565件/37,668人 R1:5,328件/39,413人 R2:4,850件/29,130人 施設の維持・管理(修繕)件数 第2グラウンド給水管漏水修繕はじめ 14件 施設の維持・管理(業務委託)件数 浄化槽維持管理業務はじめ4件 平時の保守点検・清掃や修繕により、利用者が安心・快適に使用できる状態を保持できています。										
課題		各施設において建物、附属設備の老朽化が進んでいるため、計画的な改修等が必要です。また、これに伴って使用料の見直しが必要です。 町スポーツ協会の加入者数の減少や少子化の影響等で施設利用者が減少しています。										
評価視点								総合評価				
必要性				有効性				効率性				
		○			○				○		B	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い		高い
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充							町公共施設個別施設計画に沿って、計画的な施設改修や設備の更新を行います。また、各種助成金制度を活用するなど財源の確保に努めます。 さらに、近隣市町と比較しながら、使用料の見直しについて検討します。 町とスポーツ協会やスポーツ少年団等がグラウンド等の草刈や清掃を行うことで、行政と協働で施設管理をすることができ始めているため、今後も取り組んでいきます。				
	現状維持			○								
	縮小											
	休止											
		皆減	縮小	現状維持	拡大							
		コスト投入の方向性										

総合計画	施策の方向	2 人を育み、人を活かすまちづくり	項	2 生涯学習	掲載	64	頁
	施策	2 スポーツ振興	取組	4 スポーツ施設の整備			

事業名		ふれあいセンター管理事業										
担当課		教育部 スポーツ課 スポーツ係										
目的	誰を・何を(対象)	ふれあいセンター										
	どのようにしたいか(意図)	利用者が満足できるスポーツ環境の確保に向けて、利用受付や維持管理を行います。										
事業費(千円)		2019 年度決算額			2020 年度決算額 対前年比(%)			2021 年度予算額 対前年比(%)				
		24,940	45,118	181%	28,401	63%						
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0						
	受益者負担	2,480	1,978	80%	2,500	126%						
	その他特定財源	48	48	100%	32	67%						
	一般財源	22,412	43,092	192%	25,869	60%						
評価指標		2018			2019			2020			単位	
		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率		
指標①		施設延利用者数									人	
		86,587	83,000	104%	82,049	83,000	99%	44,514	83,000	54%		
指標②												
				0			0			0		
主な事業内容		施設を安全・快適に利用できるよう、北部・西部ふれあいセンター、藤江コミュニティセンターの利用受付や維持管理を行います。										
事業実績		【R2.3/5～R2.6/15まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉館。また、緊急事態宣言発令中は利用時間を短縮し開館】 利用件数及び利用者数 北部 H30:2,292件/30,680人 R1:2,010件/28,412人 R2:1,028件/14,702人 西部 H30:1,899件/26,452人 R1:1,805件/26,121人 R2:1,348件/13,479人 藤江 H30:1,884件/29,455人 R1:1,740件/27,516人 R2:1,191件/16,333人 施設の維持・管理(修繕)件数 藤江コミュニティセンター兩樋修繕はじめ28件 施設の維持・管理(業務委託)件数 電気設備保守点検はじめ9件 平時の保守点検・清掃や修繕により、利用者が安心・快適に使用できる状態を保持できています。また、北部ふれあいセンターでは、外壁塗装工事を行うことで、施設寿命を延伸することができました。										
課題		施設や設備の老朽化が進んでいます。また、施設の改修・更新には多額の費用がかかります。これに伴って使用料の見直しが必要です。										
評価視点											総合評価	
必要性				有効性				効率性			A:計画どおりに事業を進めることが適切 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直しを検討 D:事業の統合・休廃止を検討	
		○			○			○				
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い		
今後の方向性				事業の改善点・今後の具体的な取組等								
成果の方向性	拡充										町公共施設個別施設計画に沿って、計画的な施設改修や設備の更新を行います。また、各種助成金制度を活用するなど財源の確保に努めます。さらに、近隣市町と比較しながら、使用料の見直しについて検討します。	
	現状維持			○								
	縮小											
	休廃止											
		増減	縮小	現状維持	拡大							
コスト投入の方向性												

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会（令和2年度在籍）

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	恒 川 渉	
委 員	水 野 善 久	9月30日まで職務代理者
委 員	野 田 雅 代	10月1日から職務代理者
委 員	杉 浦 政 代	
委 員	久 米 賢 治	9月30日まで
委 員	浅 田 謙 司	10月1日から

（敬称略）

(2) 教育委員会の開催状況

定例会	12回
臨時会	1回
議案	35件
承認	33件
報告事項	48件

(3) 教育委員会委員及び教育長の主な活動

委員研修会	新型コロナウイルスのため中止			
知多地方教育事務協議会	5回	参加人数	延べ	9人
	※書面開催を含む。			
入学式・卒業式	新型コロナウイルスのため不参加			
学校訪問	10校	参加人数	延べ	20人
その他各種行事等	59回	参加人数	延べ	81人

(4) 委員会活動の情報発信

東浦町のホームページで定例会の議題等、教育委員会事務局及び学校の概要を掲載している。

第2章 教育委員会事務点検・評価会議での意見